

『哲学の探求』第46号刊行にあたって

木々の緑が深くなるこの時期に、今年も皆様に『哲学の探求』第46号をお届けできることを、運営委員一同大変嬉しく存じます。

今回の『哲学の探求』には、2018年度の若手フォーラムでテーマレクチャーのレクチャーの先生方による2本の論文と、個人発表を行って下さった方々による7本の論文の、合計9本が掲載されています。

2018年度の若手フォーラム(7月21日(土)～22日(日))では、26本の個人発表と1件のワークショップ、そして池田喬先生(明治大学)と植村玄輝先生(岡山大学)をお招きした「現代現象学」をテーマとしたテーマレクチャーが行われました。フォーラム2日間で約130名の参加者によって活発な議論が繰り広げられました。このように有志が集まった若手研究者達が、年齢や所属、専門分野を問わず自由闊達な議論を展開できる場は、非常に稀有であり、貴重な存在です。

昨年度の全体会では『哲学の探求』の編集方針に関する議題が取り上げられました。現在、専門学会においても若手研究者に対して門戸が広げられるようになり、様々な有志による研究会等の活動も盛んに行われています。こうした現状において、若手フォーラムとは何であるのかについて、改めて考える時期が来ているのかもしれませんが、それにともなって、『哲学の探求』という雑誌の存在とその目的について考えていかねばならないでしょう。

最後になりましたが、様々な形で雑誌の編集作業に携わってくださった皆様に深く御礼を申し上げます。そして、『哲学の探求』を通して様々な方が繋がり、それが今後の哲学研究の発展に繋がることを、運営委員一同願っております。

2018年度哲学若手研究者フォーラム運営委員・総務担当 八幡 さくら